



モユク・カムイ 101

NO.

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。 July 2019

ASAHIYAMA ZOO NEWS

あさひやまどうぶつえんニュース



もくじ

- ぼくは動物大使 その62
猪突猛進!里山を突き進む
ニホンイノシシ.....1.2
- 特集 春オープン新施設徹底解剖!.....3.4
- 飼育研究レポート
中学校美術部を対象としたイベント.....5
- アムールトラのナージャ(メス)が
釧路市動物園に旅立ちました
新人紹介.....6
- 主なできごと
編集後記・飼育動物数.....7

ニホンイノシシ

Sus scrofa leucomystax

ニホンイノシシ

学名 *Sus scrofa leucomystax*
分類 偶蹄目 イノシシ科

東南部以南の本州、四国、九州に生息している。

メス親と子供達は3-10頭前後の群れを形成して行動するが、成獣のオスはほぼ単独行動をとる。乳離れ前の子供には独特な模様があり、「うり坊」と呼ばれる。

くぼ地に草や落ち葉などを敷き、巣としている。子供は3-8頭ほど生まれ、母親だけで子育てを行う。

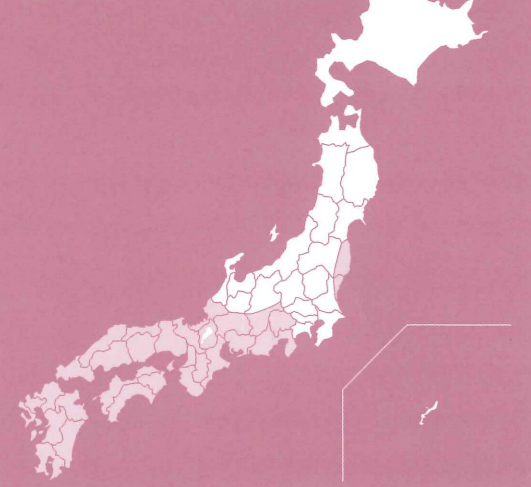
寿命は野生下では10年程だが、飼育下では20年程にもなる。

イノシシを家畜化したのがブタである。

ニホンイノシシの分布



ニホンイノシシの分布



ぼくは動物大使

その62

体 頭胴長 110~160cm
肩高 60~80cm
体重 60~150kg

犬歯 オスメス共に犬歯は発達しており、一生伸び続ける。噛み合わせたとき、上顎の犬歯は下顎の犬歯の内側になるため、上顎の犬歯は削れやすく、下顎の犬歯の方が伸びることになる。

鼻 嗅覚は優れており、食べ物を探すことに長けている。また円盤状の鼻先で力強く地面を掘る事が出来る。

食性 草・葉・種子・昆虫・小動物などを食べる雑食。動物園では穀類・リンゴ・草食動物用ペレット・サル用ペレットなどを与えている。



猪突猛進!里山を突き進む ~ニホンイノシシ~

ヌタ場 湿地などを掘り、水がしみ出たところをヌタ場とし、泥浴びをする。泥浴びをすることにより、体温調節や寄生虫対策ができる。



うり坊 離乳時期の頃まで子供には縦縞模様があり、この模様が縞瓜の模様に似ているところから、イノシシの子供はうり坊と呼ばれている。

ニホンザルとの共生展示

今シーズンからサル山ではニホンザルとイノシシの共生展示をしています。この2種、日本の里山では当たり前前に存在している野生動物として知られていますが、北海道にはどちらの種も生息していません。ただ、身近な野生動物に関する問題という点では共通するところもあるようです。

この動物たちが暮らしている場所は自然豊かな所です。普段私たちが暮らしている都市部や住宅街では野生動物を目にすることはほぼありません。しかし、住居が点在しているような山林と都市部の中間点にあたる場所として里山があります。里山はヒトと野生動物の接点となる場所、共存する場所となりますが、そのためか野生動物との軋轢が絶えません。そして、ここ北海道でもエゾシカによる農作物被害や、ヒグマの市街地出没などが身近な問題としてあります。

このサル山での共生展示を、ヒトと野生動物との共存や関わり方を考える第一歩として観ていただけたらと思います。

旭山の ニホンイノシシ



ぼんた オス

メスよりも少し体格は良いが小心者。メスのちょこに先導してもらっていることが多いです。



ちょこ メス

おっとりしていて自由気まま。昼寝が好きです。

特集 春オープン新施設徹底解剖!

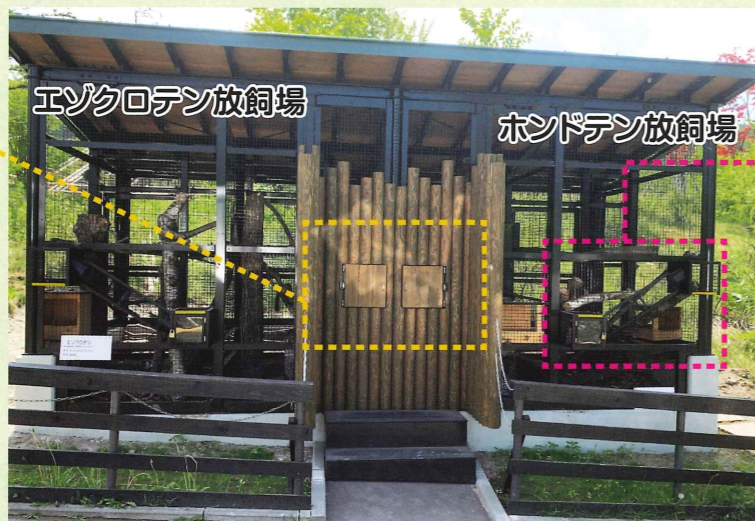
昨年の冬から工事をしていた施設が2019年夏期開園にあわせ誕生しました。東門に続くゆっくりロードの北海道産小動物コーナーに「テン舎」・「エゾタヌキ舎」、クジャク舎の前に「ニワトリ・アヒル舎」が完成しました。どのような工夫がされ、どのように展示されているかを少しだけ紹介していきます。

テン舎

エゾクロテン(北海道の在来種)とホンドテン(本州の在来種・北海道では国内外来種)の比較展示となります。放飼場は、木を複雑に組み、彼らのすばやい行動を観察することができます。



窓を開くと



窓

扉を開くと、テンが休んでいることも。静かに観察してみてください。そして窓を開けたら必ず扉を閉めてね!



エサ場&休み場所

間近でエサを食べるところを観察できる場所であるとともに、風通しも良いため、よく休んでいる場所でもあります。そっと観察してみてくださいね!

ニワトリ・アヒル舎

こども牧場にいたニワトリとアヒルが引っ越してきました。私たちにとってとても身近な家畜動物。その家畜動物の、当たり前前の姿を伝えていく施設になりました。



高い木組み&砂浴び

高い木まで飛ぶ姿やそこで休む姿、地面では砂浴びをする姿を観察できます。



卵

朝産んだ卵を見ることができます。



出窓

間近でエサを食べる姿を観察できます。

プール

アヒルが水浴びをしたり、エサを食べたりする姿を観察できます。そして、横はガラスなので、水中での足の動きを観察できます。



エゾタヌキ舎

山の傾斜を利用し、丘を作り、木を植栽して、北海道の自然をイメージした放飼場になります。エゾタヌキの習性を考え、巨大な洞を設置し、その中で休む姿など観察することができます。また、この施設は株式会社廣野組様より寄贈していただいた施設となります。



洞の窓

エゾタヌキが外にいないければ、巨大な洞の中にも…。洞には扉がついており、窓になっています。静かに扉を開けて、エゾタヌキを探してみてくださいね! エゾタヌキが寝ていたり休んでいる様子が観察できます。



歩く姿

ゆっくりのんびり歩いていますので、足を止めてじっくり観察できます。



寄贈プレート

株式会社廣野組様より創業100周年記念として寄贈していただき、立派なプレートも設置しました。



エゾタヌキ寝ていることも



旭山動物園 園内マップ

()内の数字は以前モユク・カムイで紹介した号です。

※丸いところが今回新しく完成した施設の場所になります



飼育研究レポート

～中学校美術部を対象としたイベント～



当園では、動物園の使命の一つ、「教育」を全うするため、園内でのガイド、出張授業、教材の貸出など、様々な教育活動を行っています。これらの教育活動は、主に小学校生活科、理科、総合的な学習の時間で利用されることが多く、図工・美術での利用はほとんどありません。しかし、動物をモチーフにした美術作品は多く、動物園は図工・美術の教材としても非常に有用です。科学的な側面からだけでなく、芸術的な側面からも動物に興味を持ってもらい、もっとたくさん子どもたちに動物の魅力や命の大切さを感じてもらいたいと考え、中学校美術部を対象としたイベントを試行実施することにしました。

私は以前、旭川市彫刻美術館に学芸員として勤務していたのですが、彫刻美術館は「旭川地域連携アートプロジェクト」(旭川市教育研究会図工美術部、上川旭川中学校美術部連絡協議会(市内及び上川の中学校美術部の集まり、以下美部連)、北海道教育大学旭川校美術分野(以下教育大)、北海道立旭川美術館、旭川市彫刻美術館からなる集まり)に参加し、図工美術の先生方、教育大の教授や学生と連携し、美術館だけでは実現不可能な、様々な事業を実施してきました。今回のイベントも、将来的には規模を拡大して実施したいと考え、美部連と教育大に協力を依頼しました。そして、企画立案から運営、連絡調整や当日のスタッフなどすべての面で美部連、教育大と連携して作り上げていくことにしました。教育大に声かけをした際には、地元で美術教育を学ぶ大学生を運営スタッフとして巻き込んでいきたい、動物園と学生との接点をたくさん作りたい、という思いもありました。

平成31年2月24日、「こども牧場の看板をつくろう」を開催しました。第1、第2こども牧場の看板と、それぞれの案内看板を90cm×180cmの大きさで作成するというイベントです。当日は4校、36名の美術

部員、12名の学生が参加。学生は、作例の紹介と美術部員のサポートを担当しました。生徒たちは、飼育作業やふれあいガイドを体験した後、こども牧場の動物をスケッチし、看板の案を作成しました。実際の制作は部活動の時間で行い、4月21日に完成した看板を設置しました(写真)。



生徒たちが作った看板はどれも力作揃い。看板のおかげか、こども牧場への来場者は昨年より多いような気がします。看板を目印にこども牧場に向かう人もよく目にします。また、写真撮影スポットにもなっているようです。作品を制作した生徒や顧問の先生からは、「大変だったがやりがいがあった」「作品が実際に動物園にあることがとてもうれしい」という声がありました。

昨年度は試行実施という形でしたが、今年度は規模を拡大し、本格的に実施したいと考えています。また、ゆくゆくは恒例行事化して、「旭山動物園の素敵な看板や案内サインは市内中学校の美術部が作っている!すごい!」というところまで行けたら、という野望を抱いています。

(ワシタカ・教育担当 鎌上 隼)

アムールトラのナージャ(メス)が釧路市動物園に旅立ちました

2019年6月4日にアムールトラのナージャ(3歳)が釧路市動物園に繁殖のために移動しました。今回は、その移動の一部始終をご紹介します。

2019年6月3日



まずは檻に入れるために麻酔をかけます
吹き矢で狙っています



15分くらいでぐっすり眠っているのを確認して中にはいります
(緊張する...)



採血やワクチンの注射、体重測定など健康診断を行います



檻に入れて、麻酔を醒ます注射をします



台車に乗せて運ぶ、体重は119kgでした
重いので一苦労

2019年6月4日



園内を車で移動、静かなところで明日まで過ごしてもらいます
(麻酔をしたその日に移動は動物の負担になるので)



翌日、輸送業者のトラックに乗せ替え、ナージャは檻の中ですごい怒っていました



釧路市動物園へ向かって出発!
その後、夕方には無事についたそうです

新人紹介



2019年4月から新しい飼育スタッフが加わりました、皆様よろしくお願いします。

原田 佳 (はらだ けい)

出身地:北海道江別市

好きな動物:カモ(もちもちした形や、よちよち歩く様子が好き)

趣味:登山・スノーボード

動物園の第一印象:夕日がきれいな美しい動物園

いきごみ:動物のことをもっと知って、伝えられるように頑張ります

主なできごと

- 2019年
3月24日 第19回旭山動物園動物読書感想文コンクール表彰式開催
ゴマフアザラシの「ぼちゃ丸」が出産
26日 天売猫の「ひじき」を里親さんへ譲渡
28日 ゴマフアザラシの「まめ」が出産
31日 株式会社大雪漁業様より旭山動物園へ活魚のプレゼント及び贈呈式
4月 5日 レッサーパンダの「柝」が死亡(老衰)
7日 平成30年度冬期開園期間終了
13日 北海道コカ・コーラボトリング株式会社様より「もっと夢基金」への寄付金贈呈式
旭川信用金庫様による「園内清掃ボランティア」が開催
21日 旭川塗装工業協同組合青年部主催、NPO法人旭山動物園くらぶ協力で「園内塗装ボランティア」が開催
26日 旭川市内4校(東明中・旭川中・北星中・啓北中)の美術部の生徒と北海道教育大学旭川校の美術専攻の学生が作成した「こども牧場」関連の看板を設置
27日 平成31年度(令和元年度)夏期開園日
「フラミンゴ舎」2シーズンぶりのリニューアルオープン
「ニワトリ・アヒル舎」オープン
株式会社廣野組様よりエゾタヌキの施設が寄付され、贈呈式
「北海道小動物コーナー」にテンの施設とエゾタヌキの施設がオープン

さる山でニホンザルとニホンイノシシの共生展示を開始

花王株式会社様との取り組みでこども牧場手洗い場に肉球の形の泡が出るハンドソープを設置(期間は2019年10月15日まで)

モユク☆カムイ100号を発行

イベントホールにて旭山動物園企画展「知床羅臼の四季」を開催(2019年7月中旬まで)

5月11日 コミミズク♀が死亡(心不全)

12日 エゾクロテンの♂「No13」が死亡(老衰)

旭川大学・椎名ゼミ主催こどもワークショップ「すいすいアザラシ」開催

21日 「エゾシカの森」でエゾシカ農園を開始

23日 コープさっぽろ様よりホッキョクグマ応援プロジェクトの一環として旭山動物園内にて協賛金の贈呈式

旭川信用金庫様による「もっと夢基金」への寄付に対する感謝状贈呈式

25日 今年で10年目となる循環型農園の農園開きを行う

27日 コミミズク♂が死亡(心不全)

最新情報はここでチェック!!



公式HP

Facebook

Twitter

Instagram

編集後記

大きな節目となったモユク☆カムイ100号の発行から約3ヶ月、このたび101号が発行されました。編集チームのメンバーが少し入れ替わり、私は今回から編集に参加することになりました。慣れない作業に戸惑いながらも、モユク☆カムイの新たなスタートに立ち会えたことをうれしく思います。

節目をこえて、気持ちを新たに、これからもこのモユク☆カムイで「旭山の今」をお伝えしていきたいと思います。

(中野)

モユク・カムイ No.101 2019年7月15日

- 発行所/旭川市旭山動物園
〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
- 発行人/坂東 元 ●表紙絵:中田 真一
- 編集/高橋 伸広・大内 章広・鈴木 悠太・中村 亮平
佐賀 真一・中田 真一・中野 奈央也
- 印刷/須田製版:〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1 ☎0166-62-2266

飼育動物数

2019年6月末日現在

- 哺乳類 44種・304点
- 鳥類 48種・292点
- は虫類 5種・21点
- 合計 97種・617点